

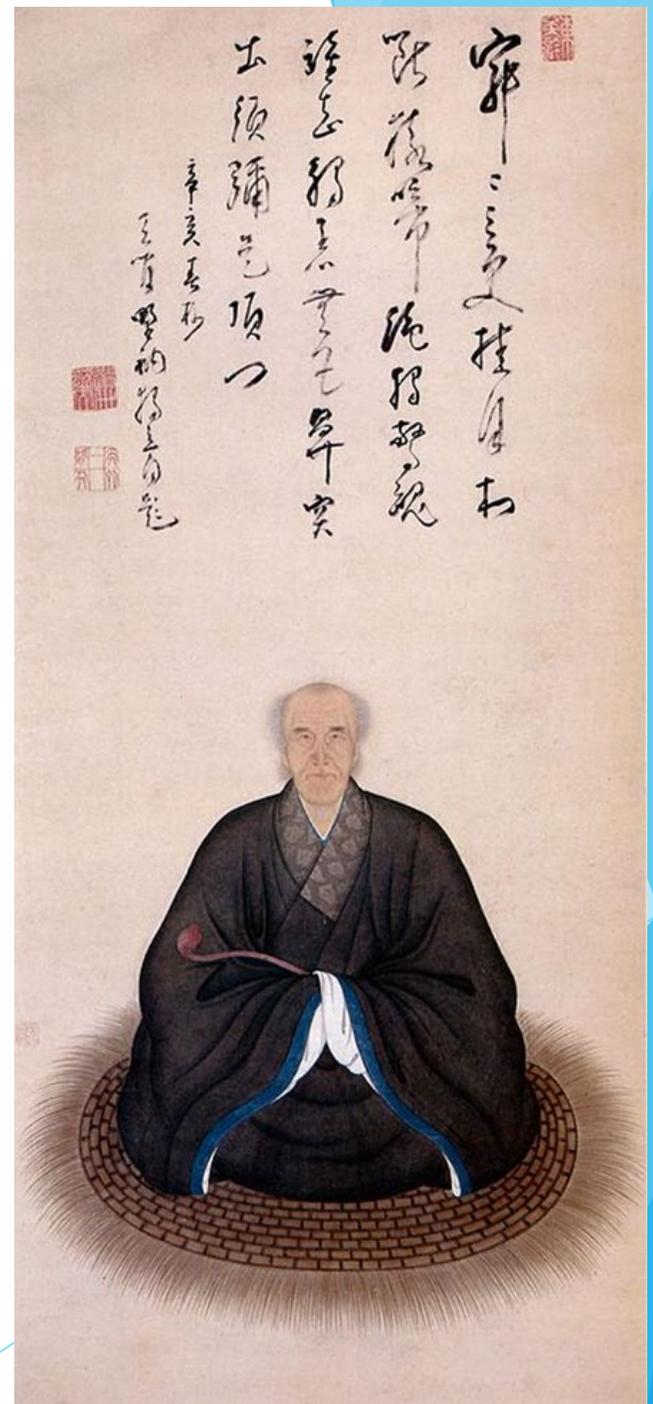
在日本看見 明朝



先從日本兩大名橋談起

- ▶ 日本三大名橋中，有兩座是明朝僧人建議與設計
- ▶ 山口縣 錦帶橋 獨立性易
- ▶ 長崎市 眼鏡橋 默子如定

山口縣 錦帶橋 獨立性易



宇治の歴史を象徴する名所である。この橋は、平安時代中期に建てられ、その美しい木造のアーチが、日本の伝統的な建築技術を示している。この橋は、宇治の文化遺産であり、観光客にとって重要な見どころである。



獨立性易少時為杭州府學秀才。年五十八（1653）東渡日本長崎。後皈依隱元隆琦為座下弟子，並於攝州普門寺擔任記室。

萬治二年（1659），移往長崎興福寺。寬文四年（1664），在長崎皓台寺住持月舟宗林薦舉下，接受岩國藩主吉川廣正、廣嘉父子之聘請為其診治，期間備受禮遇。此外，更因向藩主呈示《西湖遊覽志》，促成岩國藩錦帶橋的水利興復工程。

1946年 日本郵便 「錦帶橋切手」



1951年 日本郵便 「錦帶橋切手」

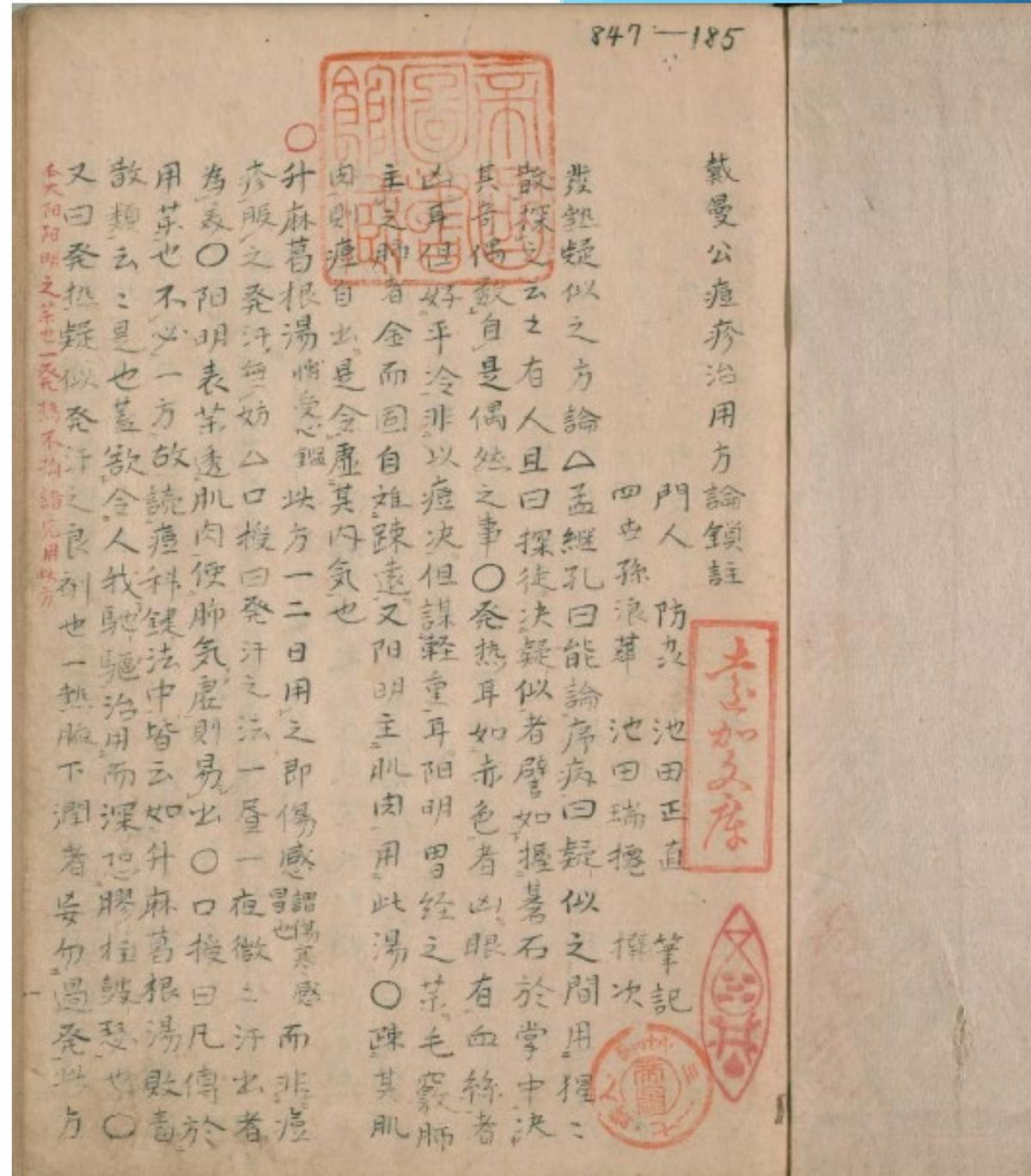


獨立性易將種痘術傳至日本。

《戴曼公痘診治用方論鎖註》為日本國會圖書館(原帝國圖書館)藏書。由獨立性易口述，門人池田正直筆記，四世孫池田瑞仙撰次。

池田正直(1597-1677)向獨立學習書法與痘科，池田家從此專業痘科，池田家四世孫瑞仙尤其專精，成為治痘瘡的醫術權威。寬政年間(1789-1800)幕府專設痘科，瑞仙被擢為醫官，乃是日本官方有痘科之始。

《扶桑遊記》王韜援引日人說法：「日本種痘之法，相傳自戴曼公(釋獨立)。今墓尚在黃檗山，京師醫流每逢祭日設祭，可謂不忘本者矣」。



獨立性易寫對日本富士山所見與感動的心情：

高首驚人眼，方知**富士峰**。
瑤臺連帝座，玉柱接天封。
雪積千秋冷，**雲橫萬嶺重**。
垂垂松柏下，四被翠華濃。

53×1000cm



長崎市 眼鏡橋 黙子如定



默子如定(1597-1657)，江西建昌府人。在揚州興福禪院出家。

崇禎五年(1632)，**默子如定36歲東渡日本**，將明版《大藏經》帶到長崎，駐錫興福寺，住持真円法師（1579-1648）亦來自中國江西。默子如定接續真円成為第二代住持。

之後**逸然性融**繼任，在逸然的邀請下，才有後來**隱元隆琦東渡日本**的契機。

指導日本人建立眼鏡橋

長崎**中島川**時常被洪水沖毀，但是當時橋樑建設技術，尚未能克服水位暴漲的困難。

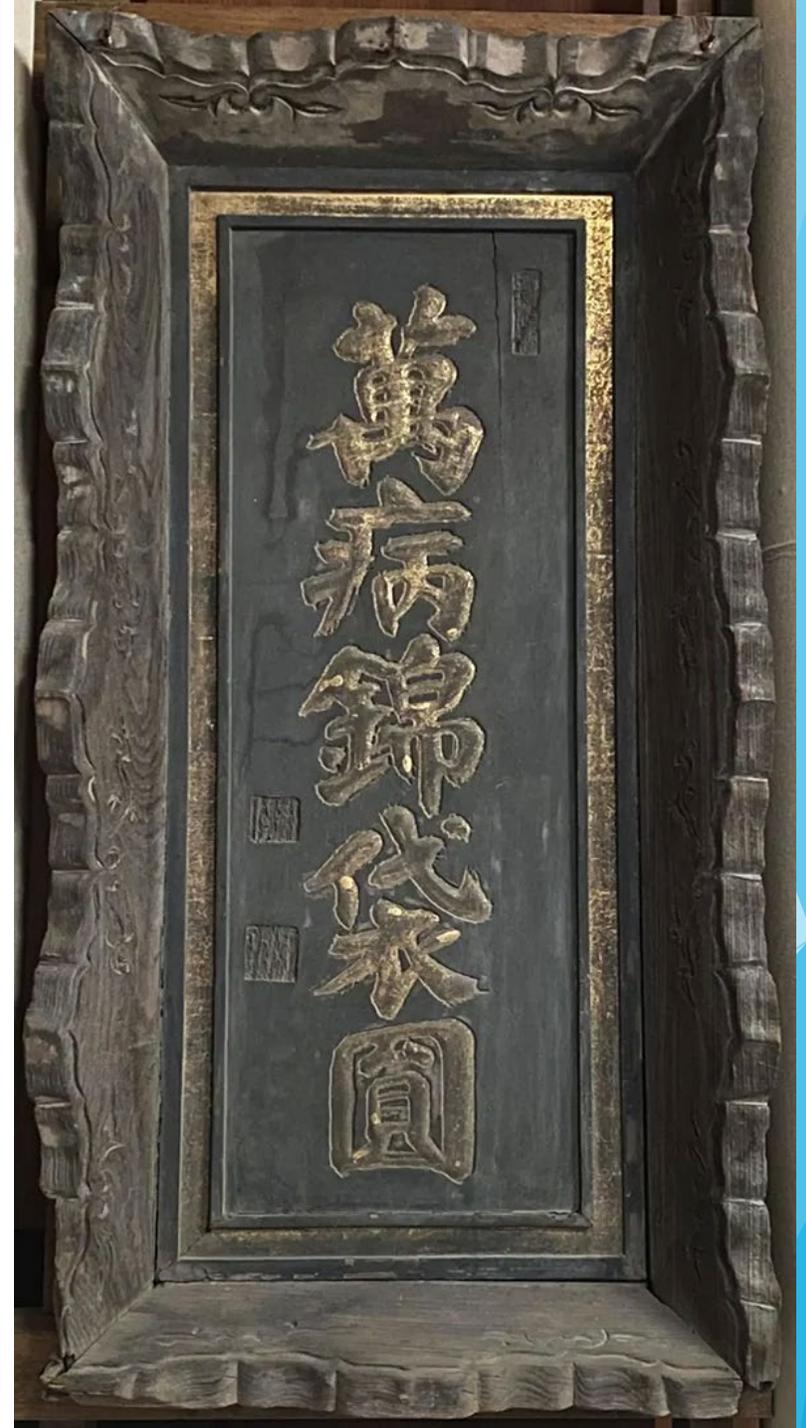
默子如定將明代橋樑先進技術帶給日本人，以明代拱橋設計，作為新建石橋指導方針，最後完成了功能與美感兼具的**長崎眼鏡橋**。**是日本第一座石造拱橋**

日本三大名橋之一的長崎「眼鏡橋」



黃檗宗了翁道覺（1630—1707），
嗣法于高泉性激禪師。

長崎興福寺第二代住持默子如定，
曾經託夢贈了翁一味藥方，他以此
「夢中神方」製作能治萬病的靈藥
「錦袋圓」，交由侄子經營，獲得
利潤十分豐厚。以此為善款，向日
本全國21個神社寺院捐贈黃檗《大
藏經》，為普及鐵眼道光版《一切
經》做出了巨大貢獻，並開設「勸
學寮」，成為日本第一個公共圖書
館。



最成功的海外弘法人隱元隆琦

1654年，**63歲**的隱元受長崎興福寺住持逸然性融邀請赴日弘法。德川幕府四代將軍**德川家綱**賜地**十萬坪**給隱元，**後水尾天皇的母親**也皈依黃檗宗。

寬文元年（1661），於**京都宇治**創建**萬福寺**，成立黃檗宗，以萬福寺為大本山，與臨濟、曹洞並立，成為**日本禪宗三大宗派**之一。



隱元隆琦與黃檗文化的貢獻

日本禪宗史學大家柳田聖山(1922-2006):
「隱元來日，是明代文化東進的一環。」

他們帶到日本的包括：

明代佛教

建築

飲食

醫學

書法

圍海造田(鐵牛道機)

雕版印刷(鐵眼道光)

等先進成果，是明代文化的軟實力，也是**江戶文化的核心**。

福建福清 萬福寺



京都宇治 萬福寺





黃檗僧誦經帶有福建泉州音

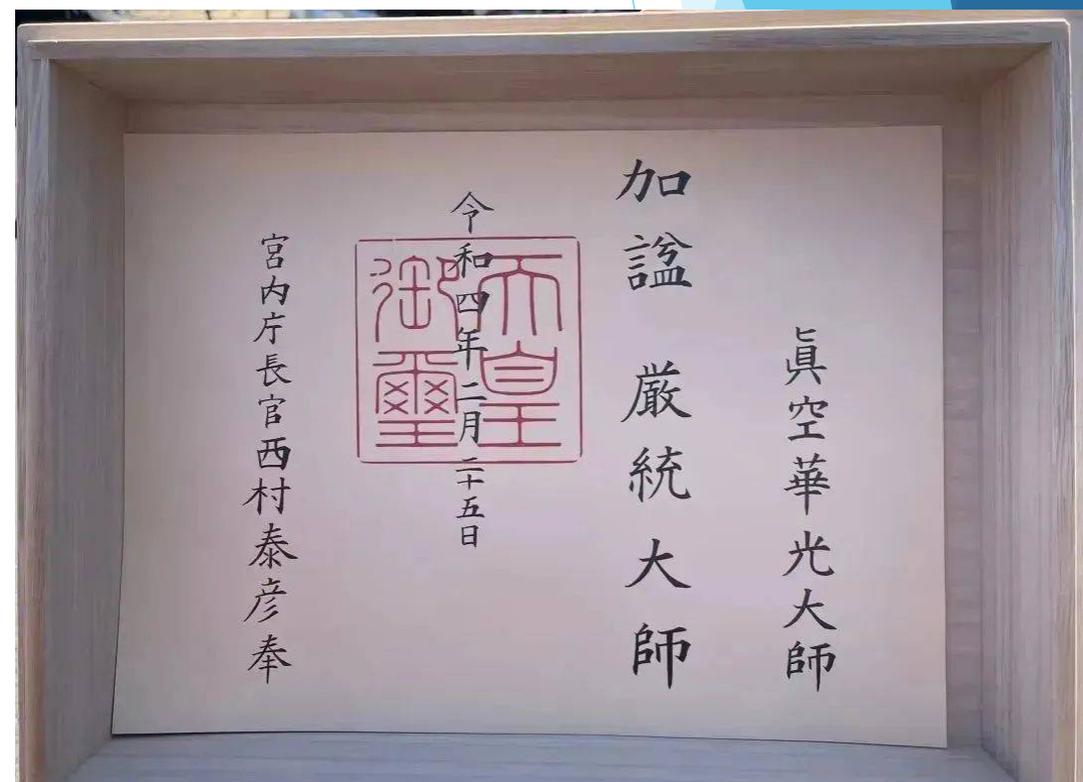


黃檗宗檀信徒勤行聖典

觀自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆
 空。度一切苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。
 色即是空。空即是色。受想行識亦復如是。舍利子。
 是諸法空相。不生不滅。不垢不淨。不增不減。
 是故空中。無色無受想行識。無眼耳鼻舌身意。
 無色聲香味觸法。無眼界乃至無意識界。無無明
 亦無無明盡。乃至無老死。亦無老死盡。無苦集
 滅道。無智亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依
 般若波羅蜜多。故心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。
 遠離顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸佛。依般若波羅蜜
 多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅蜜
 多。是大神咒。是大明咒。是無上咒。是無等等
 咒。能除一切苦。真實不虛。故說般若波羅蜜多
 咒。即說咒曰。羯諦羯諦。波羅羯諦。波羅僧羯諦。
 菩提薩埵訶。

350年來 七位天皇御賜封號

1. 寬文13年 (1673) 後水尾法皇封 「大光普照國師」
2. 享保7年 (1722) 靈元法皇封 「佛慈廣鑑國師」
3. 明和9年 (1772) 後桃園天皇封 「徑山首出國師」
4. 文政5年 (1822) 光格上皇封 「覺性圓明國師」
5. 大正6年 (1917) 大正天皇封 「真空大師」
6. 昭和47年 (1972) 昭和天皇封 「華光大師」
7. 令和4年 (2022) 令和天皇封 「嚴統大師」



「煎茶道」的形成

隱元禪師將明代福建煮茶的方式傳入日本。全新的飲茶方式相對於日本傳統抹茶道的嚴苛、繁瑣，體現了簡潔之美，以及「**和敬清閒**」的理念。

黃檗日僧**月海元昭(1675-1763)**採用**圍坐飲茶而清談**的形式，吸引了大批文人參與，後世也把月海的煎茶稱為「文人茶」，奠定日本近世茶道的基礎。

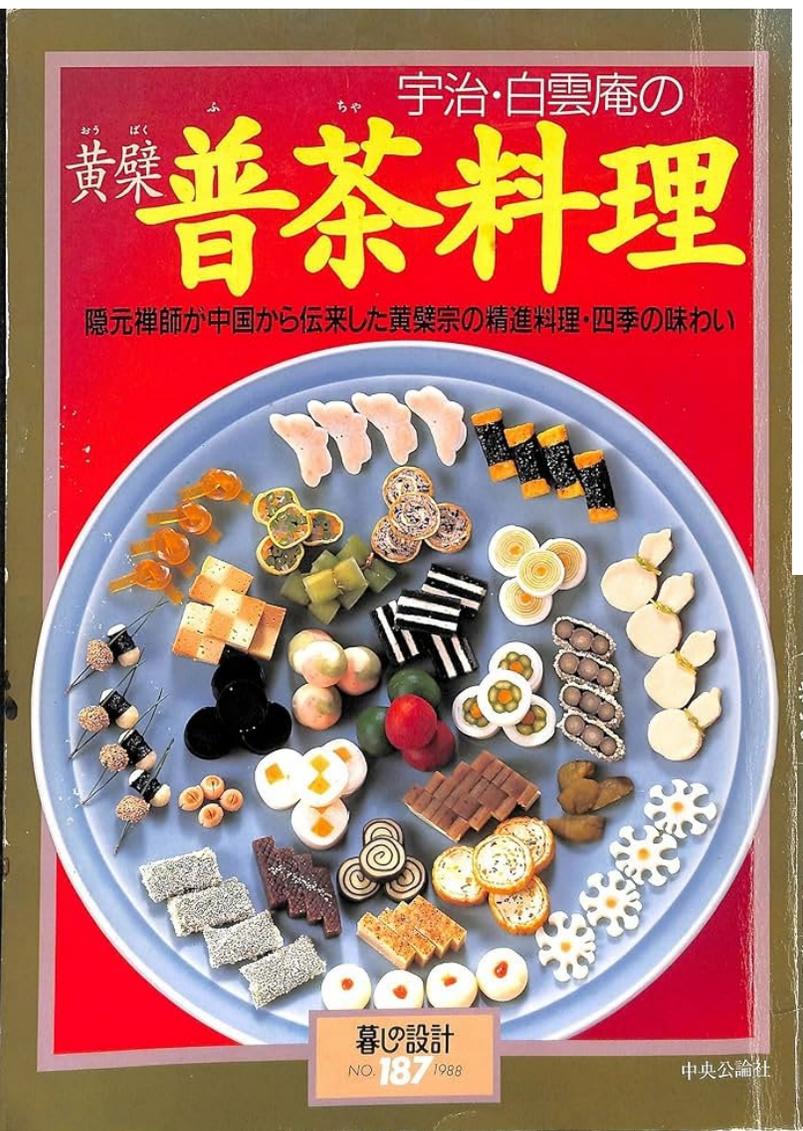
隨後，煎茶法逐漸影響到了日本上流社會，最終成為大眾的愛好，「煎茶道」因此形成。此後，煎茶道不斷流傳，影響日本社會各階層，形成許多流派，傳承至今，是日本茶道的主流。



2022年在宇治舉辦第65回全日本煎茶道大會

以黃檗命名的煎茶產品

隱元隆琦將福建素食帶到日本，發展為「普茶料理」，亦即「向普天下之人施茶」之意。還將四季豆傳至日本，日本稱為「インゲンマメ」，就是「隱元豆」。日本稱洋菜凍為「寒天」，也是隱元隆琦命名。



卓袱料理

中式圍坐圓桌進餐的「卓袱料理」，也由黃檗僧侶傳入日本。這種主客雙方毫無隔閡地進食的情形，與日本當時嚴苛繁複的用餐禮儀有不同的趣味。



「日本的孔子」朱舜水 東京後樂園



東京巨蛋也曾是朱舜水家的一部分



後樂園之名取自范仲淹
「先天下之憂而憂，後
天下之樂而樂」

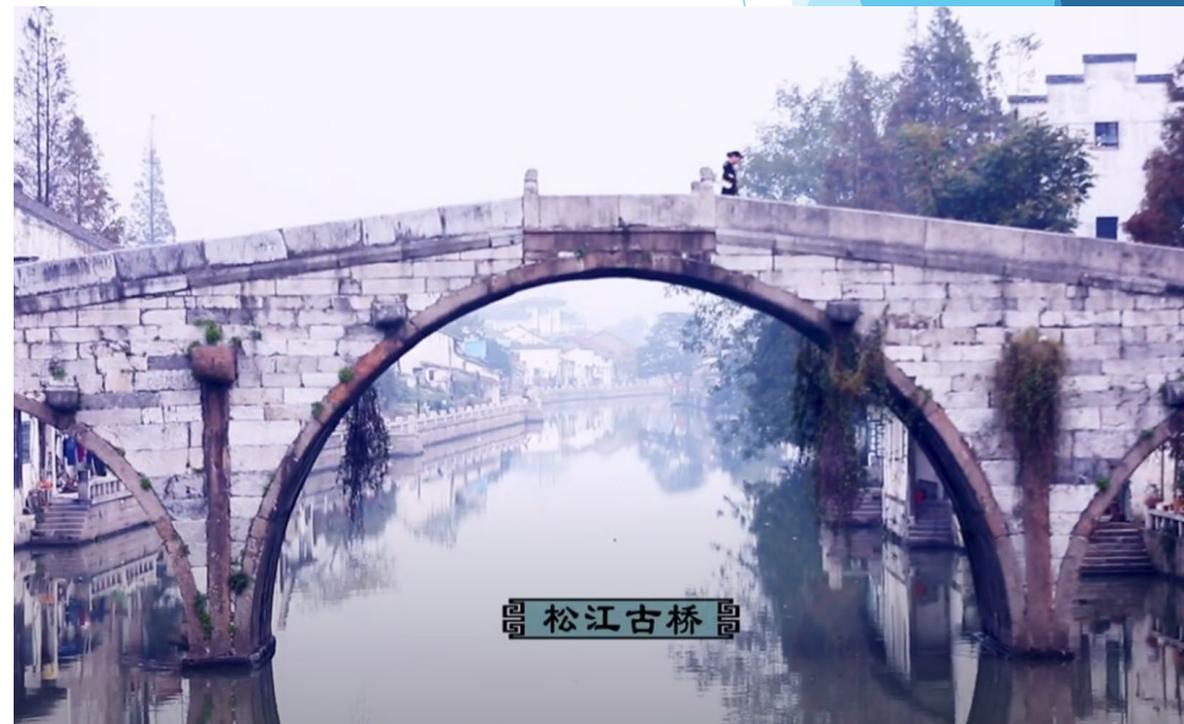
特別史迹 特別名勝
小石川后樂園



後樂園的著名景點「円月橋」



餘姚與松江古橋



後樂園野球場(東京巨蛋) 王貞治在「後樂園」創新全壘打世界紀錄



朱舜水應德川光圀之邀至江戶德川育德園
(今東京大學本鄉校區) 講學十七年



朱舜水與歷代藩主合葬於茨城縣瑞龍山的水戶藩家墓

朱舜水教導歷史的重要
他的學生安積覺主編《大日本史》



朱舜水煮拉麵請德川光圀



水戸徳川光圀
吃到日本史上第一碗拉麵



介紹一家好吃的拉麵 舜水蟬(台北市浦城街59號)

老闆說
「我要恢復拉麵最初的味道」



朱舜水〈與德川光圀書〉

副啓

別來數月矣

台臺獨侍

庭闈比之 諸昆玉羣然聚順之時倍宜加慎晨昏之際寒
煖之節事、留心使

尊大人益致其歡且令

祖

父子孫共在一堂朝夕嬉愉最是家庭之樂足徵問學之功
人生百事百行惟忠孝為之本而孝又為忠之本根本
深固枝葉自然條達暢茂花實自然繁碩夫寄物於人
細事也今日寄之明日取之有得有不得者矣惟此則萬
萬必得更勝於操左券而取之也望

台臺加意勉之世間萬物皆假祇有德行為真他日

宗 親內外交口稱賢足為交遊光寵

台臺召服御大夫之子能深執謙篤此必有大過人之識者
故敢盡言之至此去臘承 惠鹿肉壹肩昨午又惠生蔬二肩

重疊 鼎既無呂克承 謝：

孟春二十五日
文翰 頓首

左格

朱舜水五大實學思想影響日本

踐履論：強調實踐，「道」存在於實際生活，人的品格，也來自於實際生活行動。

革新論：倡導仁政，皇帝不止要勤政愛民，更要「利民」，要振興國家經濟，從而富國強民。

致用論：一是執政者要懂經濟，二是要鼓勵民營經濟。第三是要技術創新。

社會論：普及教育，要為了造福社會而學習，不但要學道德，更要學為人的智慧與生產的知識，還要因材施教。

尊史論：尊重歷史的事實。要有明確的歷史觀念，即強調國家統一，尊奉正朔。

陳元贊創起倒流柔術

陈元贊於萬曆四十七年(1619)東渡日本，1625年在江戶國昌寺向浪人**福野正生**、**三浦義辰**、**磯貝次郎**傳授少林拳法、明代衙門中的捕人術。

門徒把少林拳法同日本柔術結合，分別開創了「福野流」、「三浦流」和「磯貝流」。這三個流派後來形成了「起倒流柔術」(即摔法)。



東京港区愛宕神社



ゆかりの地を訪ねて

港区 愛宕神社

起倒流拳濃碑

東京港區愛宕神社 〈起倒流拳法碑〉安永八年
(1779)「拳法之有傳也，自投化明人陳元贊而始」



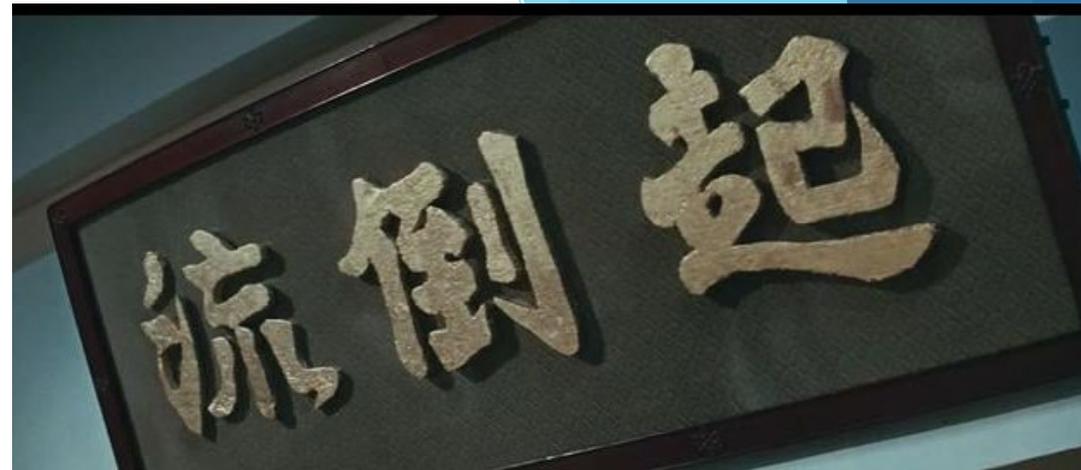
拳法之有傳也自投化明人陳元贊而始而起倒之號出於福野氏而成于寺田氏寺田之後其傳一再至瀧野氏瀧野名貞高平安人有故周流四方遂留東都十數年從游如雲一時名於諸侯矣然獨究其奧者二人比留川氏以先達尤顯而已晚矣故承瀧野氏之附囑者唯有慶翁而已翁姓加藤名長正丹後人從師而東親炙數十年而業成則青之出藍超乘而進爾後弘業自任四十年于今弟子千有餘人固不乏人然聚散無常克亡亦多方今繼志而授業於都下者嗣子長英而外事理与翁無二亦不為不多其他及門升堂之徒今皆與其進而錄名字於陰若夫來者之不如今則亡論已翁年已七十餘或恐百歲之後使西河之民疑夫子焉故粗述起倒拳法之所本自而勒石於東都圓福山寺以取證於後昆云

弟子兎道澤元愷弟侯 撰

東都後学源 鱗文龍 書并題額

安永八年己亥春二月丙辰朔九日甲子建

松橋中慶雲刻字



李小龍「精武門」

周星馳「新精武門」



日本骨學流派

傳統日本「骨學」也深受中國影響，**陳元贊**不只將柔道傳進日本，也把習武者必須懂的接骨技藝一併帶去。後來日本接骨三大流派：江戶名倉家、大阪年梅家以及長崎吉原家，都是在陳元贊奠定的骨學脈絡下，發展而成的流派。

瀨戶市 源敬公廟(德川義直墓) 陳元贊設計 被定為日本「國寶」



源敬宮廟燒香殿
陳元贊燒製的地板



名古屋 建中寺 陳元贊墓
位列尾張藩第七代藩主德川宗春之側

「大明國武林既白山陳廣學元贊」



名古屋 福泉寺 陳元贊燒製的釋迦佛首

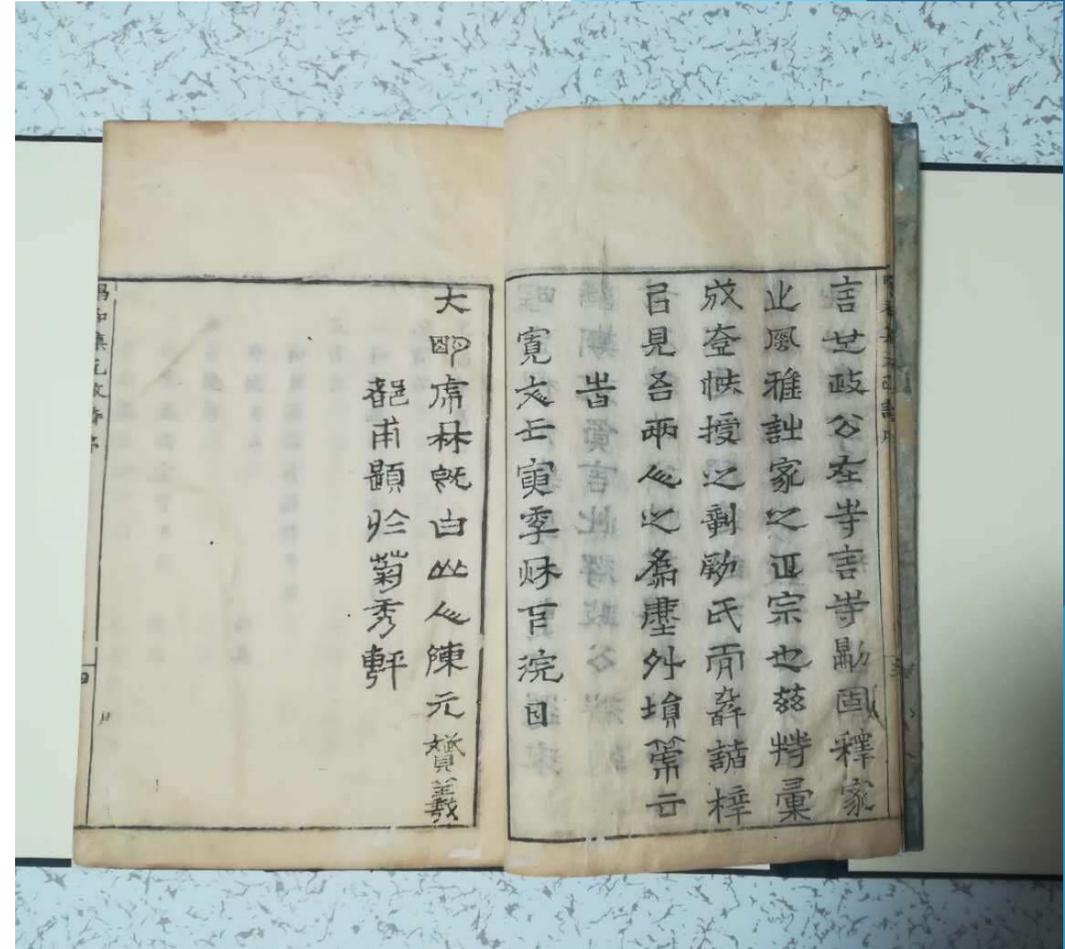
尾張藩第二代藩主
德川光友為紀念母
親而製



明代公安派文學在日本的傳播

陳元贊將明朝「公安派」文學傳入日本，被日本學界譽為「介紹中國文化之功勞者」。

公安派文學主張「獨抒性靈，不拘格套」，強調個性解放。公安派文學在日本的傳播是從陳元贊影響僧人**草山元政**(1623—1668)開始。收錄僧人草山元政和陳元贊兩人詩文的**《元元唱和集》**，是具有公安派特色的一部詩文集。此後，日本學者廣泛運用公安派文學的理論來抨擊日本國內的文學復古現象。





名古屋で2番目の老舗は今も“ういろ”の可能性を進化させている。

“ういろ”が名古屋名物として認知されたのは、昭和39年(1964年)の東海道新幹線開通にともなう土産品の浸透だった。では、名古屋でういろが作られるようになったのはいつ頃からだろうか。実は、餅文總本店にそのルーツがあるのだ。

中国から日本にやってきた文人・陳元賛(ちんげんぴん)は、尾張徳川家二代藩主である光友の知恵袋となる。お菓子に詳しくた陳元賛が、藩の御用商人であった餅屋文蔵(後の餅文總本店)にういろの製法を伝えたのは万治2年(1659年)、これが餅屋文蔵の創業だ。つまり、名古屋ではじめて“ういろ”を

名古屋364年糕餅菓子老店「餅屋文蔵」，在包裝與網路上清楚寫著，他們的製作技術乃陳元贊傳授，創立於萬治二年(1659)，至今365年。



360余年の時を経て

水戶德川光圀的佛門導師
東皐心越

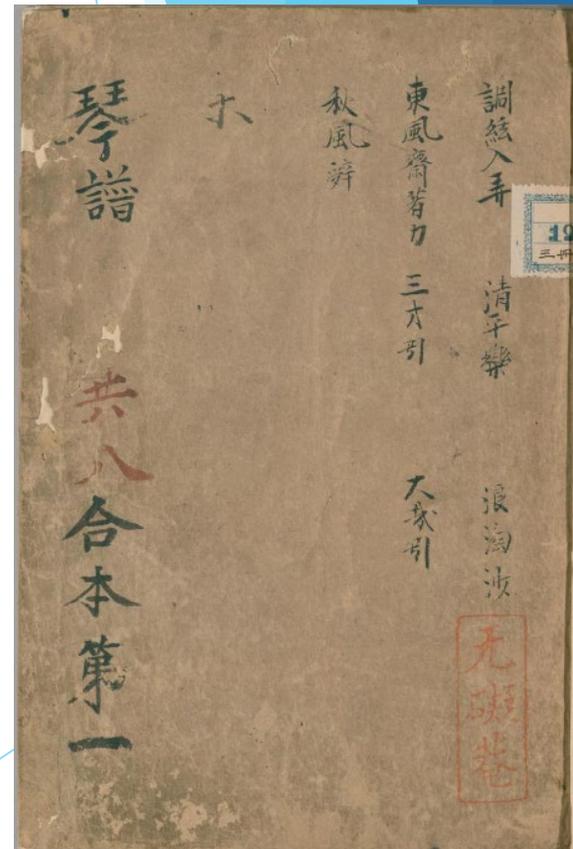
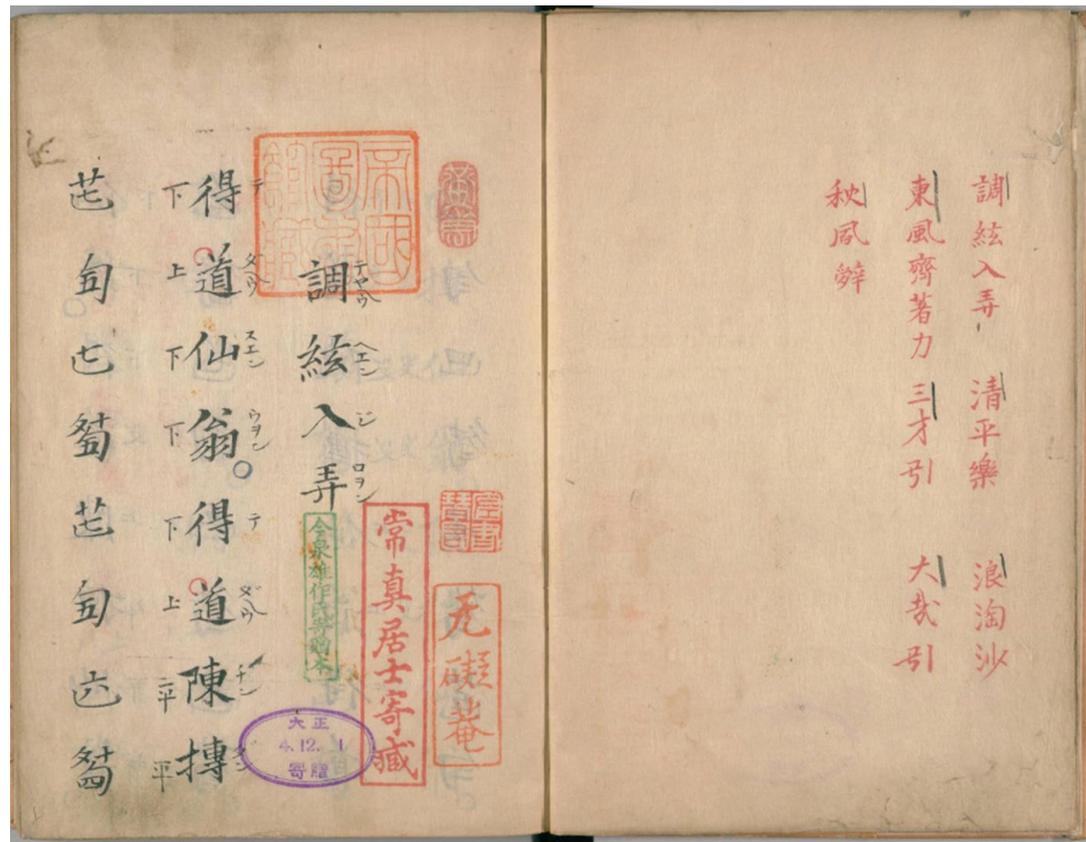
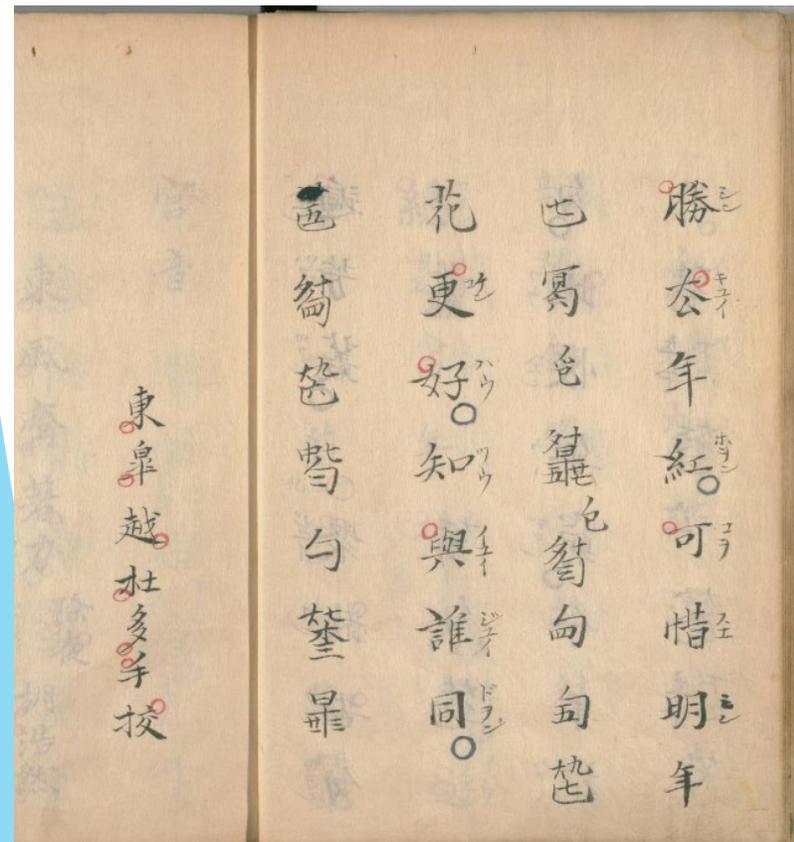
茨城祇園寺



東皐心越(1639-1695)，杭州金華府人。八歲出家於蘇州報恩寺，十三歲往謁著名高僧**覺浪道盛**。

三十三歲，入住西湖永福寺。未幾，三藩之亂起，萌生渡海之志，應日本長崎東明山興福寺住持**澄一道亮**（1608-1691，祖籍杭州）邀請，**38歲**東渡弘化，成為**日本曹洞宗壽昌新派**之開山祖師。

《日本琴史》：
「琴學盛於日本，實東臯之功也。」



日本篆刻始祖



心越が徳川光圀のために刻した「源光圀印」(右)と「子龍父」

う。篆刻は本場・中国では古くから行われてきたが、日本でこの狭義の篆刻が始まるのは江戸時代前期になってから、とみられている。それ以前の日本では、落款や花押など実用的な印が用いられただけで、鑑賞の対象となるような印章が刻され、用いられたことはなかった。

『書道全集』別巻II印譜によれば、日本で印章が鑑賞されるのは江戸時代初期、古書画の落款印章が図譜のような形式で刊行されたのに始まる。これらの木版刷り刊行物は、主として書画の鑑定に用いられたが、一方では書画の落款印章をつくる参考にも供せられ、やがて篆刻が書画家、僧侶を中心に盛んに行われるようになったという。

江戸時代の篆刻は、十七世紀の中ごろから後半にかけて、明朝が滅び清朝になる際の戦乱を避け、亡命し

てきた明の遺臣たちや、あるいは布教の志に燃え、中国から日本にやってきた僧侶たちに大きく影響されている。辻善之助著『日本仏教史』第九巻によれば、元禄年間(二六八―一七〇四年)に来日した明の遺臣や僧侶の主たる者だけでも五十余人を数え、彼らの中には、篆刻をよくす



心越が開いたとされる祇園寺(水戸市八幡町)



心越自刻印「越印」

江戸時代の篆刻に大きな影響

東草心越は、いろいろな名を持っている。俗姓は蔣氏で、出家してから諱(実名)が興備(字(通称)が心越となる。東草は、いくつもある号のひとつである。残された書画の自署例などから研究者の間では一般に東草心越と呼ばれている。東草心越がその技量に優れていた

という篆刻は、石や木、金属などの印材に文字を刻することをいい、その文字に漢字の一書体の篆書を多く用いるところから、この名称が生まれた。したがって、印を彫ることすべてを篆刻といっても間違いではないが、普通は狭義に、鑑賞の対象となる印を刻することのみを篆刻とい

江戸時代前期に来日し、水戸藩二代藩主・徳川光圀に招かれ、水戸に祇園寺(水戸市八幡町)を開いたとされる中国人禅僧・東草心越。彼は印刻(篆刻)、詩文、書画、琴などにも優れた教養の高い人物で、特に篆刻においては日本における始祖ともいわれている。今回は、信仰とともに文化面で各地に大きな足跡を残した心越の事績の一部を、篆刻を中心に紹介する。

(直接語っていた方以外の登場人物は敬称を略させていただきました)

篆刻の始祖・東草心越

水戸市ほか

高崎市 少林山達摩寺



東皐心越傳至第九代東嶽法師，**他根據東皐心越大師所繪之「一筆達摩」的樣式與精神，創造出「達摩不倒翁」，用來勉勵人們越過逆境、越挫越勇。**此後，「達摩不倒翁」傳遍日本，支撐了日本人的心，現在已經成為日本最具代表的首選紀念品與吉祥物。

高崎市 開運達摩 東皐心越



JAPANESE COSTUME FIGURE
ジャパくるみfig.
ハイキュー!!

パッケージは2デザイン展開!

着ぐるみ姿が特徴的な
新フィギュアシリーズ第2弾!

約40mm

持ち歩きに
 紐付き!

1 日向 翔陽
 ひなた しょうよう

2 影山 飛雄
 かげやま とびお

3 孤爪 研磨
 こづめ けんま

4 黒尾 鉄朗
 くろお てつろう

5 及川 徹
 おいかわ とおる

6 岩泉 一
 いわいずみ はじめ

7 宮 侑
 みや あつむ

8 宮 治
 みや おさむ

全8種

飾っても身につけても
 使える!

王陽明「致良知」、「知行合一」在日本發揚光大

▶ 日本近世陽明學者：

▶ 井上哲次郎

▶ 高瀨武次郎

▶ 中江藤樹

▶ 熊澤蕃山

▶ 大鹽中齋

▶ 吉田松陰

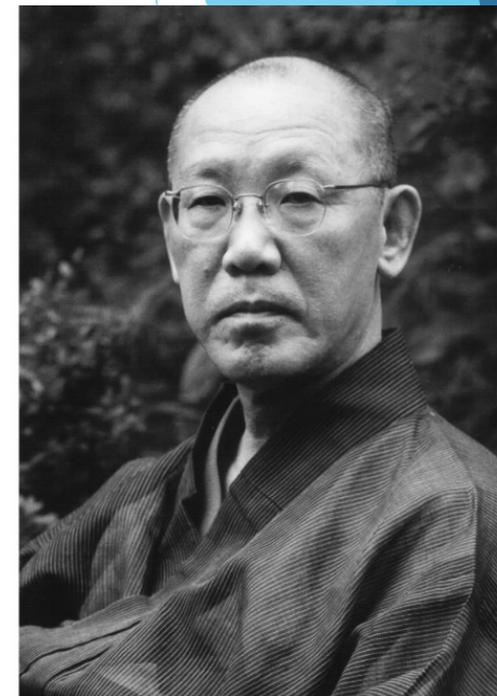
▶ 西鄉隆盛

▶ 勝海舟

▶ 安岡正篤



中江藤樹
日本陽明學開創宗師



安岡正篤
日本歷任首相的智囊

東鄉平八郎 日本海軍「軍神」



以弱勝強，殲滅俄國太平洋艦隊和波羅的海艦隊。
配章：「一生低首拜陽明」



祝賀東鄉平八郎凱旋而歸的遊行
東京新橋奉迎門

カルチャー・フロンティアシリーズ
Culture Frontier Series

現代人は陽明学から何を学ぶべきか

吉田和男

日本人の心を育てた陽明学

恒星出版

イヤな「仕事」もニッコリやれる

陽明学

眠っている能力を引き出す極意

林田明大



桜の下の陽明学

現代を生きる実践行動学として

Kazuo Yoshida 吉田和男

人生と陽明学

安岡正篤

陽明学のすすめ VI

人間学講話「三島中洲・二松學舎創立者」

深澤賢治

良知

義利合一

義に臨んで一步を進め 利に臨んで一步を退く

黄金の国の人間学

増補改訂版

真説「陽明学」

林田明大 Hayashida Akio

安岡正篤 著

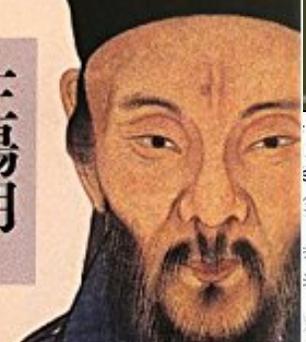
王陽明研究

近代日本の陽明学

小島毅

吉田公平 yoshida kobei

王陽明「伝習録」



大橋健二

日本陽明学 奇蹟の系譜

改訂版

叢文社

武士道の源流

陽明学がわかる本

日本人の人生美学をさぐる

長尾剛

陽明学 回天の思想

閉塞状況を打ち破れ

守屋洋



安岡正篤 人間学講話

一燈照

禅と陽明学

陽明学十講

安岡正篤



陽明学と 禅のこころ

境野勝悟

知行合一の人間学

小島毅 Kojima Tsuyoshi

朱子学と陽明学

ちくま学芸文庫

小林日出夫

陽明学 100のことば

大学の木

大学の道

日本の現在を救う行動哲学

本人のバックボーンを築いた大動脈である。どんな学問なのか。何を手がかりにしたら理解できる人のために、陽明学に生きた人物三十四人の中から、一〇〇のことばを採り出して、かすかを解説した。リーダー達の必読書！

ちくま学芸文庫

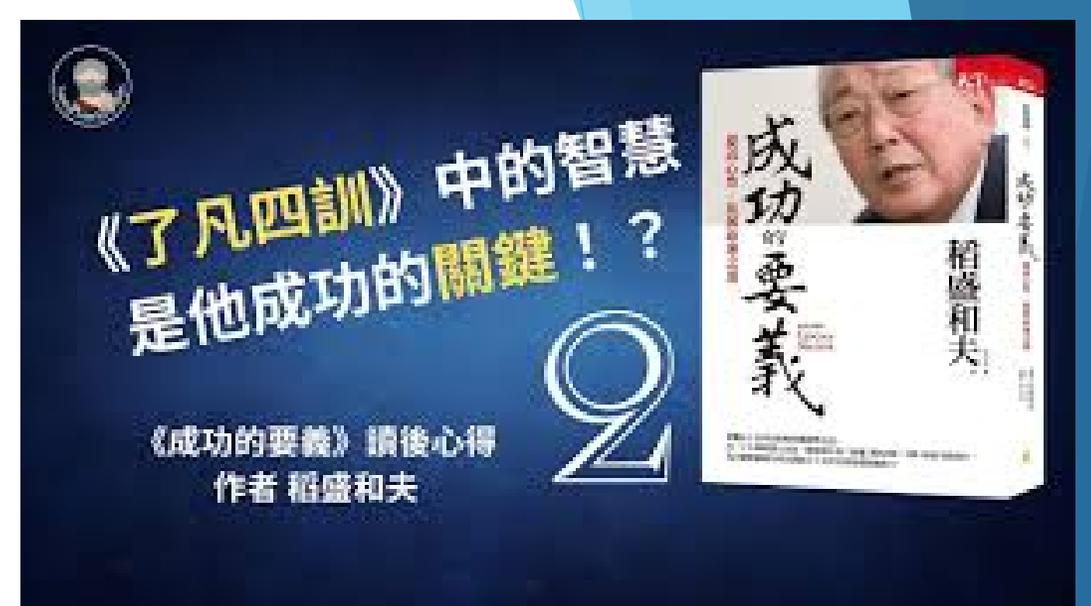
稻盛和夫的師父袁了凡

《了凡四訓》主張積善改變命運

日本漢學家、陽明學者**安岡正篤**(1898-1983)被譽為「**歷任首相的智囊**」，他建議日本天皇、首相及貴族們將《了凡四訓》當做「**治國寶典**」。

他認為《了凡四訓》是「**人生所能動的偉大的學問**」。

日本「**經營之聖**」稻盛和夫說：「我是嚴格按照《**了凡四訓**》、《**菜根譚**》進行修行和從事商業管理的。」



太上感應篇
太上曰禍福無門唯人自召善
惡之報如影隨形是以天地有
司過之神依人所犯輕重以奪
人算算減則貧耗多逢憂患
人皆惡之刑禍隨之吉慶避之
惡星災之算盡則死又有三台北
斗神君在人頭上錄人罪惡奪
其紀算又有三尸神在人身中
每到庚申日輒上詣天曹言人
罪過月晦之日竈神亦狀凡人
省過大則奪紀小則奪算其

馬雲三度向稻盛和夫請益



加藤清正建造「熊本城」



欽差經理朝鮮軍務都察院右僉
都御史楊 咨爾平秀吉

大明皇帝因朝鮮王代爾請封嘉
爾恭順不忍爾兩地之相戕傷
天_和用遣使臣渡海

力封爾秀吉為日本王爾得據
有名弭雄長諸島自宜銜戴
皇恩藉戈脩德以樂爾餘年貽
慶爾幼子斯為永圖胡使臣甫
歸遽敢違制背盟以朝鮮禮文
為辭又復侵占釜山機張之間乎
今朝鮮赴告

皇帝震怒已遣使臣更置兵
部總督另設經畧經理興問
罪之師於海上爾度爾之力即抗
朝鮮且勝負難必若

天朝視最爾日本即爾六島中之
一島耳况爾既受王封已為臣屬臣
與君抗天理不容神明且殛之昨
年爾國地大動搖此其兆也尚不
安靜祈福而欲日尋于兵乎爾已
卒餘歲壽命幾何子未十齡孤
弱何恃聞各島之酋俱現爾之
隙為復雙言報怨之舉爾不銷
兵綏衆安受人情乃使悍將擁兵
于外且諸島內變蕭牆禍起即
清正諸將各思為王豈肯久居
爾下將來又豈肯居爾子之下者
以理勢論之爾不如速行罷兵修
好朝鮮憑藉

天朝之威靈默消諸島之脾睨
其前所乞

朝廷與爾處分者何事可明白
奏未

朝廷量包乾坤視爾與朝鮮皆
為臣子必無偏重爾如不自悔
禍任爾以數十萬百萬壓朝鮮在
大朝仁恩極溺義必討逆亦不遠
勤大兵但

勅馬步十萬薄釜山助朝鮮之順
福浙水兵十萬分兩道以樓船從
南海與爾秀吉見于烏沙蓋
且問山城君安在也爾其慎思
之

萬曆二十五年正月 十八日

欽差經理朝鮮軍務都察院右僉
都御史楊 咨爾平秀吉

大明皇帝因朝鮮王代爾請封嘉
爾恭順不忍爾兩地之相戕傷
天_和用遣使臣渡海

力封爾秀吉為日本王爾得據
有名弭雄長諸島自宜銜戴
皇恩藉戈脩德以樂爾餘年貽
慶爾幼子斯為永圖胡使臣甫
歸遽敢違制背盟以朝鮮禮文
為辭又復侵占釜山機張之間乎
今朝鮮赴告

皇帝震怒已遣使臣更置兵
部總督另設經畧經理興問
罪之師於海上爾度爾之力即抗
朝鮮且勝負難必若

天朝視最爾日本即爾六島中之
一島耳况爾既受王封已為臣屬臣
與君抗天理不容神明且殛之昨
年爾國地大動搖此其兆也尚不
安靜祈福而欲日尋于兵乎爾已
卒餘歲壽命幾何子未十齡孤
弱何恃聞各島之酋俱現爾之
隙為復雙言報怨之舉爾不銷
兵綏衆安受人情乃使悍將擁兵
于外且諸島內變蕭牆禍起即
清正諸將各思為王豈肯久居
爾下將來又豈肯居爾子之下者
以理勢論之爾不如速行罷兵修
好朝鮮憑藉

天朝之威靈默消諸島之脾睨
其前所乞

朝廷與爾處分者何事可明白
奏未

朝廷量包乾坤視爾與朝鮮皆
為臣子必無偏重爾如不自悔
禍任爾以數十萬百萬壓朝鮮在
大朝仁恩極溺義必討逆亦不遠
勤大兵但

勅馬步十萬薄釜山助朝鮮之順
福浙水兵十萬分兩道以樓船從
南海與爾秀吉見于烏沙蓋
且問山城君安在也爾其慎思
之

萬曆二十五年正月 十八日

萬曆朝鮮戰爭 楊鎬〈與豐臣秀吉書〉

加藤神社「仰清正公」 建築 競技 考試的神祇



坐落在綠野中的
台積電熊本廠

